

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023年 5月

「神のむすこ娘たち」「放蕩息子 (I)」「教会と残りの民 (IX)」「もやしとにらのお焼き」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「放蕩息子 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「教会と残りの民 (IX)」

39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「もやしとにらのお焼き」

44

レシピ

お話コーナー

「創造されたもっとも美しい人 (II)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023年4月2日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

感化力を決定する体験

他人に及ぼす影響を決定するのは自分の品性と体験である。…クリスチャンの徽章は…神と人間との結合を示すものである。…

こうした生活を送り、こうした感化を及ぼすためには一步一步、努力と自己犠牲と訓練がある。このことを理解しないため多くの者がクリスチャン生活にすぐ失望してしまう。…

人の心の中をごらんになる神は、…摂理によってこうした人をいろいろ異なる地位や…境遇に導かれるのであるが、それはその人自身知らなかった自己の欠陥を発見するためである。神はこうした欠陥を改める機会を…与えられる。…

陶工は粘土をとって好きなように形を作る。それをこねて細工し、ちぎったり、かためたり、ぬらしたり、かわかしたりする。そしてそれを、しばらくそのままにしておく。こうして全くしなやかになったときに、また手を入れ、器を作る働きをつづける。彼はそれを形作り、ろくろで不要な部分を落して磨く。彼はそれを日光にかわかし、かまどで焼く。こうして初めて使用に適する器となるのである。…わたしたちも神のみ手のうちにあるべきである。わたしたちが陶工の仕事をしようにしてはならない。わたしたちのなすべきことは作り主によって形づくられるように自分をその手にゆだねることである。…

わたしたちが自分のことを知っている以上にわたしたちをご理解になる神は…身近にある、そぼくではあるが、きよい義務をみのがすことをお許しにならない。往々、こうした義務がより高い働きのための重要な準備訓練になる。わたしたちのために立てられた神の計画が成功するために、わたしたちの計画が失敗に終ることがよくある。…

どんな仕事でもすべて神のみ働きの一部であるから、…わたしたちの日常の祈りは、「主よ、最善が尽せるように助けてください。もっとりっぱな仕事ができる方法を教えてください。力と快活な精神を与え、わたしの働きの中に救い主の愛の奉仕が実行できるようにしてください」…でなければならぬ。

モーセの経験を考えてみるとよい。…

エジプトでモーセが受けた教育は、多くの点で彼の助けとなったが、その生涯の働きのため最も価値のある準備は彼が牧者として雇われていたときに受けたものであった。…この労働によってモーセは大牧者にいつそう近く引き寄せられ、イスラエルの聖者に密接に結ばれたのである。…この体験の後、モーセは…イスラエルの指導権をとるようにとの命令を天からきいた。…神は喜んで服従したことを祝福され、…人に与えられた働きの中で最大の働きに適する者とされたのである。…

人間は各自、天の永遠の計画にそれぞれの役割がある。その役割を果すかどうかは、忠実に神に協力するか否かによって定まる。…自ら改革する決意がないため、多くの者は誤った行動の中にかたまってしまうているが、その必要はない。…

自分に定められた仕事を毎日忠実に果すが、神がお定めになった日に「高く上へのぼりなさい」という神の招きの声を聞くのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 453-464)

聖書の教え

放蕩息子 (I)

〔イエスは〕「また言われた、『ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、「父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください」。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちこずして財産を使い果した。何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることに窮しはじめた。そこで、その地方のある住民のところに行って身を寄せたところが、その人は彼を畑にやっつ豚を飼わせた。彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。そこで彼は本心に立ちかえって言った、「父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。立つて、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください」。そこで立つて、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。むすこは父に言った、「父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません」。しかし父は僕たちに言いつけた、「さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから」。それから祝宴がはじまった。』(ルカ 15:11-24)。

このたとえのタイトルを変えるようにいくつかの提案がなされてきました。たとえば、「待ちわびる父のたとえ」、「無関心な兄のたとえ」「失われた子どもたちのたとえ」。この最後のタイトルはわたしの提案です。なぜなら、事実、二人の兄弟が家庭で失われていたからです。わたしたちが瞑想していると気づくように、弟はじぶんの家を離れて、改心して戻ってきました。一方、兄は家庭に残ったまま、御父の愛にもかかわらず、品性の変化はありませんでした。

三人の主要人物がこのたとえの中で言及されています。父親と二人の息子たち

です。ユダヤ人の貴族の家族のようです。

弟は自分の「自由」が制限されている環境の中で生活するのにうんざりしていたようです。彼の夢は、自分の父親の家を出て、遠いところへ行き、おそらくはアレクサンドリアか、アテナか、ローマか、あるいは他の大都市、すなわち彼が自分の好きなようにでき、同時にだれからも勧告や教えを受けない場所へ行くことでした。彼は家を出て、近くにとどまっていることでは満足しませんでした。彼は世を征服したかったのです。この夢を実現するために、彼は金銭を一大く金銭を必要としていました。この考えをいさぎながら、彼は自分の父親に近づき、法律的には自分の父親の死後に自分のものとなる遺産の一部を渡すよう要求したのです。

たとえの中で父親は、「その身代をふたりに分けてやった」（ルカ 15:12）とあります。つまり、二人の息子の間で分配がなされたということです。申命記にある律法によりますと（同 21:27）、長子は初子であるために財産の3分の2を受け取り、すえの子は3分の1のみであるとあります。

弟は、将来自分に与えられるものを、今受け取る価値が、自分にあると考えました。彼の父親は、無分別な要求を果たす義務はありませんでしたが、彼は財産をわけて、自分の財産の3分の1を弟に手渡してやりました。この要求は、その熱心な父親の心を砕いたにちがひありません。青年は意図していないとはいえ、この要求によって、自分の父親が自分の幸福と成功にとって邪魔だと告げているのと同じでした。老人は健康でしたので、彼が死ぬころには、その息子がすでに年を取っている可能性もありました。ですから、彼は青年として当然だと考えていた人生を楽しむために、自分の嗣業を求めたのです。

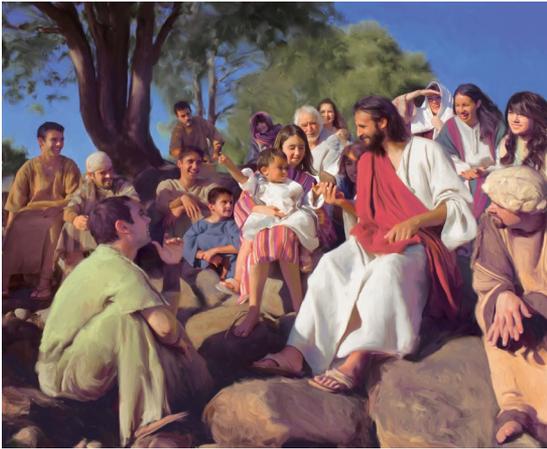
罪は山積みの愚かさや狂喜と一緒にやってきます。使徒ヤコブによれば、それば誘惑します。それはその被害者をあざむきます。わたしたちが罪を犯すとき、無分別な決断をくだし、自分の愛する人々を傷つけます。さらにもっとも傷つける人は、自分自身です。数日前、わたしは胆石によって生じた痛みのゆえに、病院の救急室にいました。同じ病室には、医療支援を受けている他の人々がいました。わたしの隣は、およそ二十歳ほどに見える若い女性がいました。痛みから気をまぎらわせるものが欲しくて、わたしは彼女と会話を始め、同じ理由でそこにいるのかを尋ねました。彼女は飲み放題パーティのために、静脈注射を受けているのだと教えてくれました。わたしは問題なく退院できるかを聞くために、医者のおフィスに戻ったとき、わたしはその事故について彼女と話しました。それはほと

んど土曜日の夜中でした。医者はわたしに、この女の子はおそらくその夜病院で次々と看護されることになる若者たちの第一号になるだろうと言いました。ある者はあまりにも変わった様子で到着し、看護を受けつけずに、最初の対応者にさらに余計な仕事を与えるのだと告げました。その医者は、最悪な夜は、町の有名なスポットでショーが行われる夜だと言いました。多くの若者が完全に酔っぱらった状態で、あるいは麻薬を使ったがゆえにけいれん状態で救急室に運ばれます。狂気だと思いませんか？人の人生の最高の数年を、いわゆる「楽しみ」という名によって、アルコールや麻薬を使用して、ムダにするとは。自分の命を危うくすることが、どうして楽しみとなり得るのでしょうか。

数日後、今はお金を持って、たとえの中の青年は自分の荷物をまとめて、遠い国へ旅に出ました(ルカ 15:13)。青年がしたいことを全部するために、彼は自分の父親の見えるところから離れていなければなりません。わたしたちが罪に落ち込みたければ、神から離れていなければなりません。このために、オーガスチンは、「遠い地」は「神を忘れること」だと教えました。パウロはこの状態を、「神のいのちから遠く離れ」ることだと言及しています(エペソ 4:18)。この展望は持つておらず、お金はたくさん持っているこの若者は、たくさんの「友だち」に囲まれていたであろうことは想像できます。彼には何の経済的な展望もなく、自分のお金は尽きることがないと想像していたようです。しかし、彼のような他の若者たちに囲まれて、彼は相手を選ばないパーティや集まりに参加しはじめ、それらはただ彼の金銭を費やし、健康をそこなうばかりでした。聖書は、彼が「放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した」と述べています(ルカ 15:13)。それからほどなく、彼は自分の「財産」が、資金があるときには自分のまわりにいた「友だち」と共に、消えてしまったことに気がつきました。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



5月

完全な型に従う

神の力に完全に寄り頼む

「さて、イエスは彼らに答えて言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」(ヨハネ 5:19)

イエスは完全な模範であって、その模範に従うのはすべての子供と青年にとって義務であり、特権である。子供時代のイエスが人性をとり罪の肉のさまで、すべての子供が誘惑されるようにサタンの誘惑を受けられたことを、子供たちの心に留めさせなさい。イエスは天父のみ旨に従い、そのすべての戒めに従順だったので、み父の神の力に寄り頼むことによりサタンの誘惑に抵抗することがおできになった。この方はみ父の戒め、指針、律法を守り、たえず神の勧告を求め、そのみ旨に従順であられた。

イエスのみ足跡に従うのは、すべての子供にとって義務であり特権である。……子供たちがあらゆる霊的恵みを主イエスに求め、自分の困惑や試練をみな救い主のところを持っていくことをイエスは喜ばれる。このお方はご自身が子供であった時、子供や青年が受ける試練や失望、困惑にさらされたので、どのように彼らを助けたらよいか知っておられるからである。神のみ約束は、大人と同じく、子供、青年にも十分与えられている。青年に、いつでも神の約束に対しては、自分たちの経験の中で、主が自分たちのためにそれを行って下さるようにと嘆願させなさい。神は、そのひとり子イエスが人間としての必要からご自分に必要なものを求めた時に、この方のためになされたのである。み父がもっと豊かな経験をもつ人々のために用意しておられるあらゆる祝福は、イエス・キリストを通じて子供や青年のためにも用意されているのである。(ユース・インストラクター 1894年8月23日)

親の権威に従う

「それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。」
(ルカ 2:51)

イエスは、永遠のお方に対してご自身が息子であることを主張された。…初めての宮まいりは新しい衝動を目覚めさせた。しばらくの間地上のあらゆる義務は忘れられたが、ご自身の神としての使命、またご自身と神とのつながりについて知っても、イエスは両親の権威に抵抗されなかった。両親の求めに応じて、イエスは忠実で従順な息子として共に帰り、骨折り仕事をする生活を手伝わされた。このお方はご自分の将来の使命という秘密を心の奥深くに隠し、公の伝道の時期が、ご自身をメシヤであると世に公示する前までおとなしく待たれた。イエスは、親の権威に従い、ご自分が神のみ子であることを認めて後 18 年間、大工の仕事場で働きながら、ガリラヤ人の簡素で平凡な生活をされた。……30 年間このお方は両親の権威に服従された。……

両親がクリスチャンであっても、子供は 12 才までは自分の思いのままにしても良いというのが一般的な考えである。こうして両親は子供を指導するというよりは、子供に先導されがちである。……このために多くの青年が自分本位で怠ける習慣に染まる。彼らは虚栄心が強く、自尊心が高くわがままである。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

わたしたちが、イエスの忍耐強い自制心、あらゆる悪評から身を引き、低い社会的地位での日々の労働にご自身を捧げておられるのを見る時、何という美しい光がその人生にふり注いでいることであろうか。子供や青年が歩むべき道がなんとはっきり示されていることであろうか。……イエスは、神が「これはわたしの愛する子…である」と、永遠のみ座から仰せになった時と同様に、地上の両親にそのつつましい家庭で仕えておられた時も神のみ子であった。(ユース・インストラクター 1892 年 7 月 14 日)

キリストの生涯は両親の権威に喜んで従う生活、また身体的にも精神的にも勤勉な生活に対して変わらぬ祝福を保証している。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

従順で礼儀正しい

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、」
(ヘブル 5:8)

もしあなたがキリストの生涯と品性を反映しようとしているなら、あなたは自分の両親に対して誠実であり、従順であるだろう。あなたは快く従うことにより、両親に愛を示すであろう。(ユース・インストラクター 1894年8月30日)

誰でも、まず両親に、それから神に対して、すぐに喜んで従うことを学ばないかぎり、本当に正しく偉大な者になることはできない。従うことを学んだ者だけが、命令するのにふさわしい者となる。

従順という教訓を学ぶことにより、子供たちは両親を敬い、その重荷を軽くするだけでなく、もっと高い権威を持つておられる方を喜ばせているのである。「あなたの父と母を敬え」という戒めは、はっきりとした戒めである。両親に無礼な態度をとり、その願いを無視する子供たちは親を辱めるだけでなく、神の律法を犯している。子供の意志が両親の意志に服従するのが早ければ早いほど、服従は完全になり、神のご要求に服従することがむずかしくなくなる。そして、神の戒めに対する従順を学び、誘惑に敢然と立ち向かう者でなければ、神の愛と祝福を受けることを希望することはできない。(ユース・インストラクター 1884年9月24日)

(キリストの)生涯は堅固さで特徴づけられていたが、この方はいつも礼儀正しく従順であられた。(ユース・インストラクター 1873年9月)

キリストはすべての青年にとって完全な模範であられた。いつもこのお方は、年の割には服従と礼儀正しさを示された。イエスの宗教は決してどの子供にも不作法や礼儀を知らない者になるようにと導くことはない。(ユース・インストラクター 1898年9月8日)

無限のお方の目は心を探り、品性のあらゆる欠陥を読まれる。このお方は青年を外見で判断せず、彼らが心に持っている人柄の良さ、油断しないで祈ることによってのみ得られる人柄の良さで判断される。……キリストは彼らの両親や身内に対する態度を採点される。彼らが礼儀正しく、親切でやさしく、本当に思いやりがあれば……その品性は天の書に価値ある者として記録される。(ユース・インストラクター 1873年9月)

勤勉

「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。」(ヨハネ 9:4)

勤勉と従順の生涯は、立派な品性、確固とした原則、目的に対する強い精神力、健全な知識、靈的に高い状態を形成するのに有効であることを、キリストの生涯はすべての青年にはつきりと示す。今日の青年たちのほとんどは、知的教養や体力が高い標準に達するのに不適當な刺激的な娯楽が大好きである。思いは思索にとって静かな健康的な状態のままではなく、大抵は興奮状態にある。手短かに言うと、渴望する娯楽に夢中になって綿密な適用、熟考、研究を不可能にしている。(ユース・インストラクター 1873年9月)

両親に尊敬を払わず、自分自身を役立つ者にしようとしなない青年は真の喜びを味わうことはできない。……むなしい娯楽を愛する気持は、思いの傾向をゆるませ、道徳力を弱めるので、多くの青年が自制心や確固とした信念をほとんど持たなくなる。(ユース・インストラクター 1873年9月)

イエスの勤勉な生活には、試みを招くようなひまな時間がなかった。墮落的な交際のために道を開くような無意味な時間がなかった。イエスはできるだけ誘惑者に対して戸をとぎしておられた。利益も楽しみも、あるいは称賛も非難も、イエスを悪い行為にさそうことができなかった。……

イエスは道具のとり扱いでさえ不完全であることを好まれなかった。彼は品性において完全であられたように、職人として完全であられた。イエスは、ご自身の模範を通して、勤勉であることはわれわれの義務であること、われわれの働きは正確に徹底的にしなければならないこと、またこのような労働はとういものであることをお教になった。手を役立たせることを教え、生活の重荷の自分の分け前を負うように青年たちを訓練する実際の働きによって、肉体的な力が与えられ、あらゆる能力が発達させられる。……神は働くことを祝福としてお命じになったのであって、勤勉に働く者だけが人生の真の栄光とよろこびをみいだすのである。各時代の希望上巻 64-66)

単純さのゆえに愛された

「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」
(ルカ 2:52)

キリストが神と人から愛されたのは、その生涯の飾り気のなさ、自尊心や虚栄に無縁だからであった。このお方は、他の者と区別するために注意を引こうとされなかった。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

キリストの生涯は質素と純潔のうちに過ぎていった。……その知恵は偉大であったが、子供らしく、年令と共に発達した。その子供時代は特別な優しさを持っておられ、愛らしさに特徴づけられていた。このお方の品性は麗しさと汚れのない完全さに満ちあふれていた。(ユース・インストラクター 1872 年 4 月)

キリストの生涯のうちにわたしたちは、あらゆる子供と青年のための唯一の安全な模範を見る。子供たちが両親の権威に反抗する気持になる時、ご自身がかつては子供であり、その両親に従順であられた贖い主の生涯によって有罪と判決される。このお方の品性は現代の子供たちの品性に比べて何と対照的であろうか。大多数の子供たちは、自分の楽しみのため、人目を引くことを目的として生きている。ある者は注意を引くために才気あふれる演説をしようとする。ある者は自分の価値が外観で判断されると考えているように思える。彼らは衣服に非常に気を配り、人目を引くことのできる見せびらかしにお金と時間をかける。その一方で密室の祈りには時間をさかず、関心もないのである。彼らは隠れた内なる人、柔和でしとやかな霊という朽ちることのない飾り、使徒がこれこそ神のみまえにきわめて尊いと、わたしたちに向かって言っている言葉を無視する。……

富や衣服は嫉妬心を起させるかもしれないが、真の尊敬や賞賛に価するものにはならない。洗練された思い、柔和と謙遜という恵みで飾られた思い、純潔で正直な心は表情にあらわれ、愛と尊敬を集める。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

もし青年が精神力が強くなり、品行方正で霊的な力が堅固になりたいのなら、イエスの飾り気のなさ、また両親の権威に対する服従に関して、その模範に従わせなさい。(ユース・インストラクター 1892 年 7 月 14 日)

バプテスマで

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があつて言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』（マタイ 3:16, 17)

イエスは人生と信心にかかわるすべてのことにおいてわたしたちの模範であられた。この方はご自身のところへ来る人々が受けなければならない模範として、ヨルダン川でバプテスマを受けられた。天使たちは救い主のバプテスマの光景を非常に強い関心をもって見ていた。そして見ていた者たちの目が開かれれば神の御子がヨルダンの岸辺でひざまずかれた時、その周りを天軍が取り巻いているのを見たのである。主はヨハネにどなたがメシヤであるかを知ることのできるしるしを与えるとして約束しておられた。そして今イエスが水から上がられると、その約束したしるしが与えられた。ヨハネは天が開けて、みがかれた金でできた鳩のような、神のみ霊がキリストの頭上に止まったのを見た。そして天から声があつて、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」と言った。……世の贖い主イエスが道を開かれたので、最も罪深い、最も貧しい、また最も重圧を感じ、軽蔑されている者はみ父へ近づく方法を見つけることができる。すなわち、イエスがご自分を愛する人々のために用意に行かれた住居のうちに住むことができるのである。(ユース・インストラクター 1892年6月23日)

キリストと共に新しい人生を歩むためによりがえつた者は神に選ばれた者である。彼らは主に聖なる者であり主に愛される者として認められている。それらの者として、彼らは思いのへり下りを示すことによって自分自身を区別するために、厳粛な契約のもとにいる。彼らは義の衣を着ていなければならない。世からその精神、その行動から離れ、自分がキリストに学んでいる者であることをあらわさなければならない。……もし自分がキリストと共に死んでいることに気づき、バプテスマの誓いを守り続けるなら、世はキリストを彼らに否定させようとしてもできない。もし彼らがこの世でキリストの生涯を生きるなら、神性にあずかる者となる。(手紙 32,1907年)

聖書の研究において

「モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしてある事どもを、説きあかされた。」(ルカ 24:27)

ヨセフとマリアは三日間彼(キリスト)を探した後、宮の庭で、博士たちの真中に座り、彼らの言うことを聞き、また質問をしておられるその方を見つけた。そしてキリストの言葉を聞いた者はみな、この方の理解と答えに驚いた。このお方はこの学識のある人々を魅了するような思いやりをもって質問をされた。……母マリアはキリストの言葉、その精神、自分のあらゆる必要に快く従う従順を心にとめた。

多くの著述家が言っているように、キリストは他の子供たちと同じような子供であったというのは正しくない。このお方は他の子供たちのようではなかった。多くの子供たちは誤った指導を受け、不当に扱われる。しかしヨセフ、とりわけマリアは自分たちの子供の父親は天の神であられることを常に覚えていた。イエスはその使命の聖なる特徴にしたがって教育を受け、正しいことをする彼の傾向はたえず両親を喜ばせた。(ユース・インストラクター 1898年9月8日)

この方が聖書に精通しておられたということは、少年時代にどんなにまじめに神のみ言葉を学ばれたかを示している。(各時代の希望上巻 61)

キリストは弟子たちに、聖書を開いて、モーセや預言者からはじめて、ご自身について記してあることをすべて教え、また彼らに預言を説明された。(教会への証 4巻 401)

キリストは、聖書が疑問の余地のない権威書であることを指摘されたが、わたしたちもそうすべきである。

(キリストの実物教訓 16)

どの子供もイエスと同じように知識を得ることができる。われわれがみことばを通して天父をよく知ろうとつとめるとき、天使たちがそばにきて、われわれの知能が強められ、われわれの品性が高められ、洗練される。(各時代の希望上巻 63)

キリストのように、わたしたちは誘惑を受けた時、「-と書かれている」という言葉で敵に対処することができなければならない。(ユース・インストラクター 1893年7月13日)

自然の研究において

「地の草や木に問うてみよ、彼らはあなたに教える。」(ヨブ 12:8)

キリストの少年時代と青年時代は健康を促進するのに都合のよい条件のもと、つつましい環境で過ごされた。その生活は大部分戸外でなされ、清らかな流れの水を飲み、果樹の果物を食された。この方は、けわしい山を上り下りし、仕事場と自宅の往復に、ナザレの通りを歩かれた。小鳥が創造主に賛美を捧げてさえずる時には、そのさまざまな調べを楽しみ、野原を飾っている草花の美しさを喜ばれた。キリストは、もろもろの天の栄光、太陽や月、星の輝きを喜びをもって書き留め、日の出や日没を感嘆して見つめられた。自然という教科書が、その前に開かれていたので、その愛情のこもった教訓を楽しまれた。どこまでも続く丘、オリーブの木立ちは、キリストがみ父と交わるためによく行かれるお気に入りの場所であった。このお方は神の知恵に満たされていた。そして、自然の研究を通し、瞑想と神との交わりによって、その靈的力は強められた。(ユース・インストラクター-1893年7月13日)

世の贖い主は丘や山へ登り、広い平原から山あいの谷へと降りて、自然の美しい風景を楽しまれた。野原が美しい草花で色どられているのを喜び、飛んでいる小鳥のさえずりを聞いて、その賛美する幸福な歌に、ご自分の歌声を合わせるのを喜ばれた。(ユース・インストラクター-1873年2月)

キリストの生涯の中で、その子供時代、青年時代には今日の青年のための教訓がある。キリストはわたしたちの模範であって、若い時にわたしたちは自然の中で神を熟考しなければならない。すなわち、神の御品性をそのみ手のわざのうちに研究しなければならないのである。思いは神をよく知ることによって強められ、神が造られたもののうちにある神の特質を読むことによって強められる。わたしたちが自然界の作品の中にある美しさと壮大さを見つめる時、わたしたちの愛情は神へと向けられる。そして……わたしたちの魂は、神の驚くべきみわざを通して、無限のお方との交わりに入ることにより、元気づけられる。(ユース・インストラクター-1893年7月13日)

神との交わりにおいて

「そして群衆を解散させてから、祈るためひそかに山へ登られた。夕方になって、ただひとりそこにおられた。」(マタイ 14:23)

キリストのよりどころは祈りにあった。……キリストは世やその他すべてのものを閉め出し、森や山へしりぞかれた。み父とだけ交わり、ほとぼしる熱心さをもって、全力を尽くしてご自分の嘆願を注ぎ出し、無限のお方のみ手をつかまれた。新しい、大きな試練が目の前にある時、このお方は山の寂しい所へそっとしりぞぎ、天父に祈りを捧げて、一晚中過ぎられた。

キリストはあらゆる事柄においてわたしたちの模範であられるので、もしわたしたちが、神に対する熱心であきらめない祈りをするにおいて、キリストの模範にならうなら、わたしたちは悪賢い敵のわなに抵抗するために、サタンの誘惑に決して屈しなかったお方の名によって、力を得ることができ、サタンに打ち負かされることはない。(ユース・インストラクター 1873 年 4 月)

この終りの時代の危難のただ中で、青年にとって唯一の安全は、つねに目を覚まし、祈ることである。神のみ言葉を読み、祈りの時間に喜びを見出す青年は、生命の泉から飲むことにより、たえず新たに元気づけられる。彼は道德上の美点と他の者が思いつくことのできない思想の広さに達する。神との交わりは良い思想、気高い向上心、真理についてははっきりとした知覚、そして行動に対する高遠な目的を奨励する。このように神とつながっている者は、そのお方の息子、娘として認められる。彼らは、主が彼らを世に対する光と知恵の通路とされるまで、神と永遠についての、よりはっきりとした見解を得つつ、たえずますます高度な地点に達していく。……神に対する祈りで得られる力強さは、わたしたちに日々の義務の備えをさせる。(ユース・インストラクター 1898 年 8 月 18 日)

祈りには大きな力がある。わたしたちの大敵は、たえず苦しんでいる魂を神から引き離そうとしている。最も小さき聖徒が天へ向かって行なう懇願は、大臣の布告や王の命令よりもサタンを恐れさせるものである。(ザインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881 年 10 月 27 日)

み父の戒めを守ることに

「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおのであると同じである。」(ヨハネ 15:10)

キリストは人と天使の前に、天におられる神のご品性をあらわす方であった。このお方は、人間が神にまったく頼る時に、人は神の戒めを守って生きることができ、神の律法は目のひとみのように大切であることを示された。(牧師への証 226)

キリストの模範はアダムのあらゆる息子、娘にとって権威あるものである。このお方は、道徳上のあらゆる教えに対して、どのような従順が人の性質に成し遂げられるかという模範を人々に与えつつ、その生涯で神の律法をあらわされた。キリストはわたしたちの模範であって、考える能力を与えられている者はみな、み足の跡にふみ従うようにと命じられている。このお方の生涯は全人類にとって完全な模範だからである。キリストは、だれでもが到達することのできる品性の完全な基準である。……

世の贖い主はどのように歩まれたのであろうか。単にご自分を喜ばせる方法ではなく、神のかたちに造られていた、墮落した人間を高めるといふ、神のみ業をなすことにより、神に栄光を帰す方法で歩まれたのである。教えと模範によって贖い主は、神のご品性をあらわしつつ、人性のうちにある道徳上のすばらしさについての完全な基準を世に与えつつ、義の道の人々に教えられた。律法についての二つの崇高な教えが全人類の行為を規制すべきである。これはイエスが教えと模範の両方で教えられた教訓であった。贖い主は人々に「あなたは心をつくして主なるあなたの神を愛し……自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」と言われた。天におられる主なる神は、人類に最高の愛と礼拝を要求しておられる。(ユース・インストラクター 1894年10月18日)

人々に自分の生活とキリストの生涯とを比較させなさい。……「わたしは父のいましめを守っている」と仰せになったお方、エホバの律法を現実のものとしたお方の模範に従わせなさい。キリストに従う者はたえず完全な自由の律法を研究し、キリストが与えて下さった恵みを通して、神のご要求に従って品性を形造るのである。(ユース・インストラクター 1894年10月18日)

世の光として

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ 8:12)

朝であった。太陽はちょうどオリブ山の上のぼったところで、その光は大理石の宮殿をまぶしく照らし、宮の壁の黄金を輝かしていた。そのときイエスは、太陽を指さして、「わたしは世の光である」と言われた。

このことばは、それを聞いた者のひとりによって、ずっとのちにあの崇高な一節となって反響した。「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。」(各時代の希望中巻 251)

真理を通して清められた者は、家の中にあるすべての物に光を投げかける、明るく輝くあかりのようなものである。良い働きは、あらゆる真の信者のうちにあられる。主は品性の完全さ、神に対して完全であることがわずかでも欠けているものを受け入れることはおできにならない。熱心さの足りない奉仕はどれも、あなたが模範であられるお方を真似るのに失敗したことを、天の住民の前にあかす。(ユス・インストラクター 1892年10月13日)

キリストの弟子は人々の間にある一つの光以上のものでなければならない。彼らは世の光である。イエスはご自分の名をもって呼ばれるすべての者に向かって、あなたがたはわたしに心をささげた、そこでわたしはあなたがたをわたしの代表者として世に与えたのだと仰せになる。父なる神がみ子を世につかわされたように、「わたしも彼らを世につかわしました」と主は言われる。……クリスチャンよ、救い主は大いなる光の源であられると同時に、人間を通してこの世にご自身をあらわされることを忘れないでほしい。神の祝福は人間の器を通して与えられる。……光の天使は滅びるばかりの魂に、天の光と力をあなたを通して与えようと待ちうけているのである。……キリストが心に宿られるならば、その臨在の光をかくすことは不可能である。(祝福の山 50)

世の光であるお方がそばを通られると、あらゆる苦難の中に特権が、混乱の中に秩序が、失敗と思えるところに神の成就と知恵があらわれる。(教会への証 7巻 272)

光と生命という賜物が共にわたしたちのところへ来る。(手紙 264, 1903年)

親のような神の特質を あらわすことにおいて

「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。」(詩篇 103:13)

ご自分がなされたすべての恵み深い行為に、イエスは親のような慈悲深い神の特質を人々に印象づけようとした。すべての教訓の中に「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」という素晴らしい真理を人々に教えようとされた。イエスは、わたしたちがみ父の愛を理解するようにと望まれ、親としてのみ父の恵みを示すことによって、わたしたちをみ父のもとへ引き寄せようとしておられる。わたしたちの全視界を神のご品性の完全さで満たそうと望んでおられる。弟子たちのための祈りの中で、イエスは「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。わたしはあなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました」と仰せになっている。

イエスをご自身の生涯で神の品性を例証し、サタンが始めた偽りの主張を一掃し、神の栄光をあらわすために世にこられた。イエスが天父の憐れみ、思いやり、そして愛をあらわすことができるのは、人々の中に住むことによってだけであった。神の恵みをあらわすことができるのは慈悲心のあふれた行為だけだからである。人々の不信は根が深かったが、それでもイエスの神のような模範のあかし、またその愛と真理の行為に抵抗することはできなかった。(ユース・インストラクター 1892年 12月 15日)

神の摂理の恵み深さは、あらゆる魂にみ父の最高の慈しみに対するキリストのあかしを裏づけながら物語っている。創造のどの対象にも与えられた祝福は、その対象が創造の規模に占めている場所に比例しているということ、主はご自分の民が気づくよう望んでおられる。口のきけない動物の必要さえも満たされるのであれば、神がご自分のかたちに形造られた存在に与えられる祝福をわたしたちは感謝してよいのではないだろうか。(世界総会冊子 4期 1899年)

神は愛であり、わたしたちを心にかけておられる。「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。」(詩篇 103:13)。(ユース・インストラクター 1893年 12月 14日)

身体の発達において

「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあつた。」(ルカ 2:40)

イエスの身体の発達は霊的成長と同じく、「幼な子は、ますます成長して強くなり」という言葉で、わたしたちの前に示されている。子供時代、また青年時代に、身体の成長に対して、注意が払われるべきである。両親は、飲食、衣服、運動について良い習慣を養うよう、子供たちを十分訓練すべきである。そうすれば、将来の健康への良い基礎が築かれるからである。身体の組織は、体力がそこなわれず、最大限まで発達することができるよう、特別に注意を払う必要がある。こうすることにより、子供や青年は有利な立場におかれ、適切な宗教訓練によって、霊的に強くなることができる。……

利己的な楽しみにふけることが、身体の健康を保つために必要であると、多くの人が主張する。体を最高に発達させるために変化が必要であるというのは正しい。思いと体は変化によって新たにされ、活気づけられるからである。しかしこの目的は、青年がするようにと要求されている日々の義務を無視して、愚かな楽しみにふけることによって得られるものではない。青年の活動的な思いと手はじっとしてはいられない。そして、もしそれらが発達し、他人を祝福する有益な仕事に向けられていないなら、体と思いの両方に害を及ぼすことになっていることに気づくであろう。ユース・インストラクター 1893年7月27日

イエスが子供と青年の時代に働かれたとき、その心と体が発達した。イエスは体力を向こうみずに用いないで、どの方面でも一番よい仕事ができるように、体力を健康に保つような方法で働かれた。各時代の希望上巻 65

イエスの自然の単純な生活は身体の良い性質を發育させ、堅固で、汚れのない品性を発達させるのに好都合であつた。ユース・インストラクター 1873年9月

霊的ばかりでなく肉体的にも、キリストは、神の法則に従うことによって神がすべての人間をこのようなものになりたいとご計画になったものに見本であられた。各時代の希望上巻 38

食欲に勝利して

「すると試みる者がきて言った、『もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらん下さい』。イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』と書いてある。」(マタイ 4:3, 4)

食欲という点における荒野でのキリストの大きな試練は、克己という模範を人に残すためであった。この長い断食は、クリスチャンと称する者がふけている事柄の罪深さについて人々に罪を悟らせるためであった。キリストが荒野で得られた勝利は、人がそのような楽しみにふける、まさにそのことの罪深さを人に示すためであった。人の救いは、はかりの上に乗せられ、荒野でのキリストの試みによって決定されるのであった。もしキリストが食欲の点で勝利されたのであれば、人にも勝利する機会があるのである。……

信心の奥義を理解するクリスチャン、贖いについて気高く聖なる意識を持つクリスチャン、自分のために荒野で勝利されたキリストの苦しみに気づくクリスチャンは……自分の生活と、真の基準であるキリストのご生涯を熱心にまたいつも比較することにより、非常に強められる。……神を軽く考え、忘れさせるように導く娯楽は、キリストが勝利されたように勝利したいと人が思うなら、ならうのに唯一安全な模範であられる世の贖い主、キリストの模範の中に何の是認も見いだせない。……人は今サタンとの戦いで、アダム以上に有利な立場にいる。アダムの不従順とその結果である墮落の経験がその例を避けるようにと警告を与えているからである。人にはまた食欲とサタンの数々の誘惑に勝利し、あらゆる点において力の強い敵を破り、あらゆる戦いに勝利者となられたキリストの模範があるのである。(ビュー・アンド・ハルド 1874年10月13日)

飲食の習慣はサタンがあなたを彼の戦車にしっかりと結びつけているので、勝利するのは最もむずかしい。(原稿 20,1894年)

キリストの奉仕に自分自身を捧げるすべての者はキリストの模範に従い、完全な勝利者となる。(原稿 176,1898年)

積極的な自制

「彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。」(イザヤ 53:7)

ある種の人々は自制心なしに過ごしてきた。彼らは気分や舌を抑制したことがなく、そのうちの何人かはキリストに従っていると主張しているが、そうではない。イエスはそのような模範を彼らに示されなかった。……ある人々は神経質で、挑発を受けて言葉にも精神にも自制心を失い始めると、大酒飲みがお酒を飲んだ時のように怒りにわれを忘れる。彼らは理性を欠いており、容易に説得されたり納得したりしない。彼らはまともな判断ができない。サタンがその間完全に支配しているからである。これらの怒りの表明一つ一つは神経組織と道徳力を弱め、別の挑発に対して怒りを抑えるのをむずかしくする。

この種の人々に唯一つの治療薬がある。それはあらゆる状況のもとでの積極的な自制である。自我に対して、逆らうことがない場合には成功しているように見えるが、サタンはこの哀れな魂を何処で見つけたらよいかを知っており、その弱点をくり返し攻めるのである。彼らは自分自身を高く評価しているかぎり、たえず悩まされる。……しかし彼らにも希望がある。争闘と気苦労の激しいこの世の生活が、キリストとの交わりに入れられ、もう自己が最高位をやかましく要求することがないようにさせなさい。……彼らは「私は不正を行ないました。許していただけますか。神は、わたしたちが怒ったまま日を沈ませてはならないと仰せになっていますから」と率直に言って、自分自身をへり下らせなければならない。これが勝利への唯一安全な道である。多くの人は……自分の怒りを大事に育て、復讐心にもえて、不愉快な感情に満たされる。……このような悪い感情に抵抗しなさい。そうすれば同胞との交わりに大きな変化を経験するようになる。(ユース・インストラクター-1886年11月10日)

自己が最高位を求めて争うのを止めて、聖霊が心に働かれる時、魂は完全に無抵抗になるので、その時神のかたちが心に反映する。(原稿 176,1898年)

わたしたちの原則となるべき主の原則

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ 13:15)

現代、子供や青年が、両親の支配に従うには自分たちがあまりにすぐれていると考えているのを見て、悲しく思う。……彼らは、両親の権威に従うことは弱さの証拠であり、正しい独立を犠牲にすることであると思っただけのようにみえる。しかし、自分自身を抑制する能力の代わりに、彼らは目的を心に決めかね、もろい。彼らの道徳力は弱々しく、ほとんど霊的力が無い。彼らがこのように弱く、誘惑にたやすく陥る理由は、キリストの生涯にならわないからである。……

聖なる贖い主のみ足の跡に従う代わりに、彼らは自尊心と自己高揚に満たされている。彼らは自分の好むことを研究し、神に捧げられていない思いの気の向くままにする。(ユース・インストラクター 1892年7月14日)

一瞬一瞬キリストは正義と不正を区別し、不正に光をあてる鏡として律法を掲げつつ、神の戒めという光の中に罪を置かれた。たびたびキリストの兄弟が怒りを引きおこしたのは、この正義と不正の間にある鋭い区別であった。けれどもキリストの訴えと懇願、その表情にあらわれた悲しみは、彼らに対する非常に優しく熱心な愛をあらわしていたので、彼らはキリストの公正と忠誠についての厳格な判断から、この方をそらせようと誘惑するのを恥じた。(ユース・インストラクター 1898年9月8日)

神はこの墮落した時代の汚れのただ中に、堅く立って、良い働きに熱心な民を持っておられる。神の力を非常にしっかりとつかんでいる民がいるので彼らはあらゆる誘惑に対する証明となるであろう。満ちあふれる手段によって悪い情報がその人々の感覚に語りかけ、その思いを墮落させるように思えるかもしれないが、彼らは神とまたみ使いたちと非常に堅く結びついているので、見ることも聞くこともしない者となる。……青年は非常に堅固な原則を持つことができるので、サタンの最も力強い誘惑も、彼らをその忠誠から引き離すことはない。(教会への証 3巻 472)

ののしられてものしりかえさず

「ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」(ペテロ第一 2:23)

わたしたちは、不当に扱われており、自分に関して正しくないことが話され、他の人々に、偽りの光で評価されていると感じることが、どれほどたびたびあることであろうか。わたしたちがこのように試される時、自分の精神と言葉を厳格に守る必要がある。わたしたちは許さない精神を抱かないためにキリストの愛を持つ必要がある。わたしたちを傷つける者が自分の不正を告白するまで、彼らに許しを与えないで自分が正しい者であるとは考えないようにしよう。わたしたちが罪ありと思う人が悔い改めと告白によって、心をへりくだらせるまで、彼らのことを心にとめつつ、自分のつらい思いをつのらせるべきではない。……彼らがどれほど激しくわたしたちを傷つけても、自分の悲しみを大事にし、自分の損傷に同情するのではなく、わたしたちは、神に対する自分の違反が許されるようにと希望するように、自分に悪を行なった人を許さなければならない。……わたしたちがののしられる時、ののしりかえしたいという誘惑に、どれほど強くかられることであろうか。しかしそうすることによって、わたしたちものしる人と同じように悪い者であることを示すのである。ののしるよう誘惑された時、神があなたに恵みを与え、舌を沈黙のうちに保つことができるよう、黙祷しなさい。……

イエスはわたしたちがみ足の跡に踏み従い、すべての人に対して思いやりと愛、好意をあらわすようにと模範を与えておられる。親切な精神、寛容の精神、誘惑を受けて、わたしたちに耐え難い不正を行なった人々に対する優しい憐れみ深い愛を養おう。できることならこの傷をいやし、不正を行なう者がその人とわたしたちの間を立てているあらゆるへだてを取り除くことによって、誘惑の扉を閉めよう。……主はご自分をあがめる者、その憐れみを認める者、周囲の人々に同じやさしい特性をあらわすことによって、自分に対する主の愛を感謝していることを示す人々に、祝福を与えることを喜ばれる。(ユース・インストラクター 1893年6月1日)

彼は誤解され、たびたび一人で立たれた

「わたしはひとりて酒ぶねを踏んだ。もろもろの民のなかに、わたしと事を共にする者はなかった。」(イザヤ 63:3)

もし彼らがイエスを天からくだられたおかたとして信じ、イエスと協力して神のみわざをなしたのだったら、この地上の肉親関係はどんなにかキリストの支えとなっていたことだろう。彼らの不信はイエスの地上生涯に暗い影を投げた。それは、イエスがわれわれのために飲みほされたあの苦悩のさかずきののがさの一部であった。……兄弟たちの短いはかりなわでは、イエスが果たすためにおいでになった使命をはかることができなかった。したがって彼らは、こころみのうちにあられるイエスに同情することができなかった。彼らの下品で、物事のわからないことばは、彼らがイエスの品性を真に認識していないこと、したがって神性が人性にまじりあっていることをみとめていないことをあらわした。彼らは、イエスが悲しみに満たされておられるのをよくみかけた。だが彼らの精神とことばは、イエスを慰めるどころか、かえってその心を傷つけた。……

こうしたことのために、イエスの歩まれる道はいばらの道だった。キリストはご自分の家庭での誤解に非常に心を痛められたので、そうした誤解のないところへ行かれることがイエスにとっては救いだった。イエスはたびたびひとりでおられて、天父とまじわることだけに心の救いを見いだされた。

キリストのために苦しみを受け、自分の家庭においてさえ誤解と疑惑に耐え忍ばねばならない者は、イエスも同じことに耐えられたのだと思うことによって慰められる。イエスは、彼らに対してあわれみの心を動かされる。イエスは彼らに、イエスを友とし、イエスが経験されたように、天父とのまじわりのうちに心の休みをみい出すようにと命じられる。キリストを自分自身の救い主として受け入れる者は、みなし子としてとり残され、ひとりて人生の試練に耐えねばならないようなことはない。キリストは彼らを天の家族の一員として受け入れてくださる。キリストは、ご自分の父を彼らの父と呼ぶように命じておられる。彼らは神の心にとって愛する子供たちであり、最もやさしく、いつまでも変わらないいぎずなによって神にむすばれているのである。神性が人性よりもすぐれているように、神は、父や母が無力なわれわれに対して感じたよりもはるかにまさったやさしさを彼らに対して感じておられる。(各時代の希望中巻 43-45)

彼は、権威ある人々に対して干渉されなかった

「イエスは答えられた、『わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない。』」（ヨハネ 18:36）

今日、宗教界には、自分たちが信じる通りに、キリストのみ国を、この地上に、現世の支配権をもった国として建設するために働いている人たちが大勢いる。彼らは主イエスを、この世の王国の主権者、世の法廷、軍隊、議会、王宮、市場の主権者にしたいと望むのである。彼らは、主が人間の権威によって施行される法律を通して統治されるのを期待する。キリストがいまみずからこの地上におられないので、彼らは、キリストの代理をつとめ、……このような国を建設することは、ユダヤ人がキリストの時代に希望したことである。……しかしキリストは、「わたしの国はこの世のものではない」と言われた。主はこの世の王座を受けようとされなかった。

イエスの在世当時の政治は墮落していて、圧制的であった。棄てておけない悪弊一搾取、偏狭、暴虐な残酷さがいたるところにみられた。それでも救い主は、社会改革を試みられなかった。主は国民の悪弊を攻撃したり、国民の敵を非難したりされなかった。主は、権力者たちの権威や行政に干渉されなかった。われわれの模範であられたおかたは、現世の政治から遠ざかっておられた。それは、主が人々の不幸に対して無関心であられたからではなく、これを救う方法がただ人間の外面的な手段にはなかったからである。効果があるためには、救済策は個人に及び、心を生まれかわらせねばならないのである。

キリストのみ国は、法廷や会議や立法議会などの決定や、世俗的に有力な人たちの後援によってではなく、聖霊の働きを通して、キリストの性質が人間性のうちにうえつけられることによって、建てられるのである。「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」（各時代の希望中巻 314, 315）

他の人々に対する愛において

「こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。」(エペソ 5:1, 2)

あなたがたは神に愛されている子供として神にならい、キリストもまたわたしたちを愛して下さったように、愛のうちを歩きつつ、神のすべてのご要求に従うべきである。……愛は、キリストが行動し、歩み、働かれた基本要素であった。このお方はご自分の愛のみ腕に世を抱くために来られた。……

わたしたちはキリストが示された模範に従い、このお方がわたしたちのためにあらわしてくださったように、他の人々に対して同じ愛をわたしたちが持つようになるまで、このお方をわたしたちの模範としなければならない。キリストはこの愛という意味深い教訓をわたしたちに印象づけようとしておられる。……もしあなたの心が自分本位に傾いているのなら、キリストにその愛を吹き込んでいただきなさい。このお方はわたしたちがご自分を全的に愛することを望んでおられる。そして、ご自分が模範を与えて下さったように、わたしたちも他の人々を愛するようにと励まし、命じてさえおられる。キリストは愛を弟子の身分の記章とされた。……これは「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」というところまであなたがたが達するための測定値である。何という愛の高さ深さ広さであろうか。この愛は単に気に入った数人を含むのではなく、神の被造物の最も低いもの、最もつまらないものにまで及ばなければならない。イエスは「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」と仰せになる。……

わたしたちが他の人々へ与えるようにと、イエスが望んでおられる愛と同情は、魂へのわなである感傷主義の香りがするものではない。それは天において採取された愛、イエスが教えと模範によって実例を示された愛である。しかし、この愛をあらわす代りに、わたしたちは何とたびたび互いに不和となり、仲たがいをするのだろうか。……その結果は神からの離反であり、向上を妨げる経験、クリスチャンの成長をくじくことになる。……

イエスの愛は、クリスチャン同志のきずなで、心と心をつなげる活動的な原則である。天国に入る一人一人は地上で愛が完成している。天国では贖い主と贖われた者がわたしたちの関心のまとなる。(ユース・インストラクター 1892年10月26日)

同情心において

「イエスは舟から上がって、大ぜいの群衆をごらんになり、彼らを深くあわれんで、そのうちの病人たちをおいやしになった。」(マタイ 14:14)

キリストの生涯、そのあわれみ、へりくだりそして愛、言い表せないほどの優しさをあなたに指摘させていただきたい。あなたはこのお方の模範にならうべきである。神はあなたに命と楽しむことのできるあらゆる豊かな祝福を与えて下さった。だからそれに対してご自分の律法に従うように、またご自分を愛し、感謝し、仕えるようにと要求される。これらの要求は最も大切なものであって、軽々しく無視してはならない。しかし神は、この世においてさえもあなたをより幸福にしないものは何一つ要求しておられない。(ユース・インストラクター 1884年1月30日)

天の至高者は苦しんでいる人類と関心を一つにされる。わたしたちの仲間や同胞は心からの親切と優しい思いやりを必要としている。……キリストが同情、あわれみ、愛についてわたしたちに与えて下さった教訓を、わたしたちが実践するまでは、生ける頭であられるキリストのうちに成長するというのは不可能である。天に起源をもつこの愛が魂のうちに入るまでは、キリストのかたちを反映するのは不可能である。(ユース・インストラクター 1892年10月20日)

救い主の側に一つでも清められていない行為があったなら、型を傷つけてしまい、わたしたちのための完全な模範になることはできなかった。しかしこのお方はわたしたちと同じように試練に会われたが、罪のしみはついていないのである。救い主は預言者の口を通して、「わたしは主であって、地にいつくしみと公平と正義を行っている者である。わたしはこれらのことを喜ぶからである」(英語訳)と仰せになって、ご自身の品性を宣言される。キリストのみ名を口にする者はみな、自分がお手本である方を見習っていることを、会話と行為によって世にあらわしつつ、これらのことを喜ぶべきである。……キリストを信じる者はだれでもキリストのみ業を行わなければならない。主は、地上における神の慈愛、審判、義を実践する方として人々の前に示されており、このことは真のクリスチャンが帯びる実である。(ユース・インストラクター 1892年10月13日)

快活に

「この際、お勧めする。元気を出しなさい。」(使徒行伝 27:22)

イエスはいなかの家に住んで、家庭の重荷を負うために、ご自分の立場を忠実に快活に果たされた。……イエスはご自分の労働に快活さと気転とを持ち込まれた。家庭生活と職場に聖書の宗教をとり入れ、世の中の仕事の重荷を負いながらなお神の栄光に対して目が澄んでいるためには〔マタイ 6:22 参照〕、非常な忍耐と霊性とが必要である。この点においてイエスは人々の助けとなられた。彼は天の事物のために時間を費やしたり考えたりする余裕がないほどこの世の苦勞をいっぱいかかえておられなかった。たびたびイエスは詩篇や天の歌をうたって心のよこびを表明された。ナザレの住民たちはイエスが神への賛美と感謝をささげられる声をたびたびきいた。イエスは歌を通して天とまじわられた。仲間の者たちは、働きに疲れて不平を言うと、イエスの口から出る美しい歌の調べに元気づけられるのだった。イエスの賛美は悪天使を追い払い、香煙のようにその場をかおりで満たすように思われた。(各時代の希望上巻 65-67)

どのような仕事を命じられても顔をしかめたりいらいらしないで、快活にその小さな重荷を負いなさい。……それらはただ平凡なありふれた日々の義務以外の何物でもなく、あなたには非常に小さな取るに足りないものに思えるかもしれないが、だれかがそれをしなければならぬのである。もしあなたがそれらをすみやかに行い、両親の気苦勞を軽くするために自分が何かをすることでうれしく思うなら、あなたは家庭にとって祝福となる。常に快活な明るい表情をして、手伝う機会を見逃さないことによって、あなたがどれほど多くの善をなすことができるかをあなたは知らない。……日毎にあなたは永遠のために築いている。あなたの品性を神のお手本に合わせて形造りなさい。品性にあらゆる親切、思慮深い従順、勤勉、あなたにできる愛を織り込みなさい。……敏感に同情する心を養いなさい。いつも快活で明るい表情をし、あなたの助けを必要とする人々に助けの手を伸べる準備をしていなさい。……神はご自分に栄光を帰すためになされたあらゆる行動について正確に記録される。……そして最終的な清算の大いなる日にあなたは栄誉にみちた報いを受けるのである。(ユース・インストラクター 1884年9月24日)

魂を勝ち取るにあたって

「イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ 4:19)

イエスをご自分の軍勢の若い兵士に多くのことを期待しておられる。そしてあなたが司令官また指揮者であられるお方を失望させないように決心しなさい。あなたはこのお方のよろいかぶとを身につけ、そのみ旗の下に整列し、敵を征服し、その王国を広げるにあたって、このお方の共労者にならなければならない。……あなたが聖なる信頼を裏切るなら自分の魂を危険にさらす。あなたは他の人々に、行動に対する最も気高い動機をあらわしつつ、またキリストの奉仕の魅力を示しつつ、戒めの一つ一つに忠実で誠実、また従順でなければならない。あなたを暗闇から驚くべきみ光の中へ招き入れてくださった方のみわざを語り伝えなければならない。(ユース・インストラクター 1892年10月13日)

キリストの愛を経験した者は、主のぶどう畑で怠けてはいられない。彼らはキリストへの道で他の人々を助ける機会を見つける。キリストの愛にあずかることにより、彼らは他の魂のために労する。あらゆる魂に、模範であられる方にならわせ、魂をイエスへ勝ちとるにあたって、最も気高い意味での伝道者とならせなさい。(ユース・インストラクター 1892年10月20日)

キリストがわたしたちのためにして下さったこと、罪人のために苦しまれたことを考えて、わたしたちは魂のための純粋な私心のない愛から、その人々の益のために自分自身の楽しみや都合を犠牲にすることにより、キリストの模範にならうべきである。キリストをあらゆる苦しみの中でささえた喜び、このお方の前におかれた喜びはあわれな罪人の救いであった。これがわたしたちの喜びになり、また主の働きをしようとするわたしたちの願いを引き起こすものとなるべきである。そうすることによってわたしたちは神をあがめ、僕としてこのお方に自分の愛と献身をあらわす。神がはじめにわたしたちを愛して下さり、愛するひとり子を私に差し控えないで、わたしたちが生きられるようにと、御子をご自分のふところから出して、死にわたされた。わたしたちの同胞のための愛、真の愛は神への愛をはっきりと示す。(世界総会冊子 1891年3月20日)

キリストと生き生きとしたつながりを持っている者は、そのことを行動の中であらわす。……彼らは魂をキリストに勝ち取り、天の倉に束を運び込む。(ユース・インストラクター 1892年12月15日)

善をなし、他の人々を祝福するについて

「神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやししながら、巡回されました。」(使徒行伝 10:38)

キリストは地上におられた時奇跡を次々と行われた。この働きの中でこのお方は、神が苦しんでいる体と魂のために何がおできになるかを示された。……この方はご自分に与えられたあらゆる機会を活用しながら、たえず他の人々に仕えられた。子供時代でさえ、若い人にも年配の人にも慰めと優しい言葉をかけられた。……このお方はあらゆる子供たちがそうなるようにと励むことのできる模範であられた。……その言葉と行動においてキリストはすべての人に優しい同情をあらわされた。その際は落胆した人、気落ちした人に対するいやしと痛みを和らげる香油であった。(ユース・インストラクター 1898年9月8日)

このお方は何者もかき乱すことのできない忍耐力、またわきへそれることのない誠実さをもっておられた。このお方の自発的な手と足はいつも他の人々に仕え、両親の重荷を軽くする用意ができていた。(ユース・インストラクター 1872年4月)

イエスの模範に従うよう気をつけていなさい。ひまわりがたえず花を太陽に向けて咲いているように、あなたの心と思いをたえず義の太陽イエスに向けていなさい。自己を中心にし、自分の楽しみと願いを第一にしてはならない。他の人々の益を求めなさい。彼らにとって祝福となること、あなたの創造主に栄光を帰すことを研究しなさい。(ユース・インストラクター 1884年5月14日)

わたしたちの周囲の至る所に世界の嘆き悲しむ叫び声が聞こえる。どちらを向いても、貧しい者や困っている者がいる。人生の苦労や悲慘に救いの手を伸べて和らげるのが、わたしたちの務めである。人の心の欠乏は、ただキリストの愛だけが満たすことができるのである。もしキリストがわたしたちのうちに住んでおられるならば、わたしたちの心は、神からの同情心で満ちあふれる。閉じた泉が開かれて、キリストのような熱烈な愛の泉となる。

希望を失った者が多くいる。彼らに太陽の光を取りもどそう。勇気を失った者も多い。……こうした人々のために祈ろう。彼らをイエスのところに連れていこう。ギレアデに乳香があり、医者であられる主がおられることを彼らに告げよう。(国と指導者下巻 319)

神を、あらゆる賜物の附与者と認めて

「日々われらの荷を負われる主はほむべきかな。神はわれらの救である。」(詩篇 68:19)

ユダヤ制度のもとで、子供が生まれると神ご自身の指名により、神に捧げ物がなされた。今日わたしたちは両親が子供の誕生日に贈り物をすることに特別努力しているのを見る。彼らは、あたかも名誉は人間のためにあるかのように、これを子供に栄誉を授ける機会としている。……永遠の命に対する希望と同様に、命も健康、食物、衣服も、わたしたちはあらゆる憐れみの附与者に恩を受けている。だから神の賜物を認め、最大の恩人に感謝の捧げ物することは神に対する義務である。これらの誕生プレゼントは天で認められる。

もしクリスチャンの両親が、人間に対する救いという神の大いなる賜物を認めて、子供たちが神への捧げ物をするのを習慣づけていたならば、若い人々の品性はどれほど変わっていたことであろうか。彼らの思いは自分自身から、祝福された救い主へと引き寄せられていたことであろう。彼らは神が自分たちを愛しておられること、また神はすべての祝福の源であり、自分たちの幸福と永遠の命の希望であることを感じるよう教えられたであろう。

もしこの種類の教育が子供たちに与えられていたなら、わたしたちは今日利己心や妬み、嫉妬がはるかに少ないのを見るはずであり、もっと男らしい若い男性、もっと女らしい若い女性を見るはずである。わたしたちは、純粋な原則を持ち、よく調和のとれた思いと素晴らしい品性をもった、道徳的に力強い青年が形成されるのを見るはずである。なぜなら手本であるお方はずっと彼らの前におられ、彼らは模範であるイエスの素晴らしさにならうことの重要性を痛感させられているからである。……神は青年も大人もイエスを見つめ、ご自身が送られたイエス・キリストを信じ、キリストがその心に宿ることを望んでおられる。そうすれば新しい命がその人のあらゆる能力を活気づけるのである。聖なる慰め主は、彼らの弱さのうちに彼らを強め、困惑の中で彼らを導くために彼らと共におられる。……慰め主は生命の道を彼らに明らかにされる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1890年12月9日)

許しにおいて

「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。(ルカ 23:34)

キリストはわたしたちの模範である。神の人類家族の一員として、自分たちの前にある特権と可能性に、人々が気づかないので、彼らが悟らない重要な働きを成就するために、このお方はご自身を人類の頭とされた。……このお方の憐れみは弱々しいものではなく、罪を罰するのに恐ろしいほどの力があり、……また人類の愛を引き寄せる力も持っておられた。キリストを通して、正義はその高められた聖潔の一点も犠牲にすることなく許すことが可能である。(世界総会冊子 1899年 4期)

キリストはわたしたちに「わたしたちに負債ある者をゆるしましたように、わたしたちの負債もお許してください」と祈るよう教えられた。そして、「もしもあなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父もあなたがたをゆるして下さるであろう」とつけ加えられた。……

もし誰かがあなたに悪いことをして、あなたに「悔い改めます」と言うにはあまりに自尊心が高く、片意地である時、あなたはその違反者のところへ行って、「わたしはキリストのためにあなたを愛していますので、あなたがわたしになした不当な扱いを許します」と言わないのだろうか。イエスはこの愛の行為をあかしし、是認される。そしてあなたが他の人々にする時、あなたに再び帰ってくるのである。(ユース・インストラクター 1893年 6月1日)

わたしたちは自分に負債のある人々に対して、彼らが自分の過ちを告白してもしなくても、憐れみと思いやりの精神を持たなければならない。もし彼らが悔い改めて、告白するのに失敗するなら、彼らの罪は審判の日に彼らと対決するために天の書に記録される。しかし、彼らが「悔い改めます」と言うなら、その時……わたしたちは自分に対する彼らの負債を心から喜んで許さなければならない。(ユース・インストラクター 1893年 6月1日)

真の幸福は富や地位があるからではなく、純潔で清らかな心を持っており、真理に従うことによって清められることによる。……天の原則を行う機会はあるゆる人に与えられる。仕返しをしないで侮辱を許すことは、真の慈しみである知恵の表明である。主が働かれた人々を通して流れるキリストのような愛は、品性のまことの改変のあらわれである。(手紙 229,1905年)

キリストが完全であられるように わたしたちも完全であるべきである

「そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となり、」（ヘブル 5:9）

わたしたちの救い主は、神の御子として人類と真の親族関係を結ばれた。わたしたちは神の息子、娘である。どのように慎重にふるまうかを知るために、わたしたちはキリストが導かれる道に従わなければならない。このお方は30年間、完全という最高の標準を満たしつつ、完全な人として生活された。（手紙 69,1897年）

わたしたちの仕事は、キリストが地上における生涯で品性の各時期に成し遂げられた完全を、わたしたちの活動領域で成し遂げることである。（医事伝道 253）

つまづかないで前進するために、わたしたちは全能のみ手がわたしたちをささえておられ、わたしたちが倒れるなら、無限の憐れみがわたしたちに向かって与えられるという確信を持たなければならない。神だけが、助けを求めるわたしたちの叫びをお聞きになることができる。

良心から保護手段を一つ取り去ること、一つの良い決心を実行するのに失敗すること、一つの悪い習慣を形成することは自分自身を減ぼす結果となるだけではなく、わたしたちを信頼している人々も減ぼすという考えは深刻な思想である。わたしたちの唯一の安全は主の歩みが導かれる道に従い、「ついてきなさい」と仰せになるお方の保護を絶対的に信頼することによる。「わたしの歩みはあなたの道に堅く立ち、わたしの足はすべることがなかったのです」という祈りがたえずなければならない。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年7月28日）

創造主がわたしたちに授けてくださったあらゆる能力は完全という最高点にまで啓発しなければならぬ。それによってわたしたちに可能な最高限度にまで役立つことができるためである。自分の品性を純潔にし、磨くために、わたしたちにはキリストが与えて下さる恵みが必要である。この恵みはわたしたちが自分の欠陥を知って直すことができるようにし、わたしたちの品性のうちにある卓越したものを向上させることができる。（太平洋健康ジャーナル 1890年4月）

神の御子には欠陥がなかった。わたしたちがこのお方の右側に座を占めたいのなら、わたしたちも完全を目指し、このお方が勝利されたように勝利しなければならない。（教会への証 3巻 336）

キリストが聖であられるように わたしたちも聖となるべきである

「わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである」(ペテロ第一 1:16)

神がご自分の領域で聖であられるように、わたしたちも自分の領域で、限りある力をもって聖なる者でなければならない。(ビュー・アード・ハルド 1892年11月1日)

神は、わたしたちが自分の前に置かれた型であるお方の通りに品性を建設することを望んでおられる。与えられた指示に従って自分の弱点を見つけ、これを正して、一つずつレンガを積み上げ、恵みに恵みを増し加えなければならない。家の壁に亀裂が見つければ、その建物には何か不備があることが分る。わたしたちの品性建設において、亀裂がたびたび見られる。これらの欠陥が矯正されないかぎり、試練という嵐がおそってきた時、その家は倒れる。

神はご自分の是認の印を押すことのできる品性を、わたしたちが建てることのできるようにと、わたしたちに力強さ、判断力、時を与えておられる。ご自分の子らが一人一人、純潔で気高い行為をなすことにより、気高い品性を築くことを神は望んでおられる。そしてついには人と神とに栄誉を授けられる。均整のとれた建物、美しい宮を提供されるためである。

自分の品性建設において、わたしたちはキリストの上に建てなければならない。キリストは確実な土台、すなわち決して動かされることのない土台である。誘惑や試練という嵐も、永遠の岩に釘づけにされた建物を動かすことはできない。主のための美しい建物にふさわしく成長したいと願う者は自分のあらゆる能力を向上させなければならない。品性が調和して発達できるのは、タラントを正しく用いる時だけである。このようにして、わたしたちはみ言葉の中で金、銀、宝石すなわち神の清める火の試練に耐える材質として表されている材料を土台にする。(チャイルド・ガイツ 165,166)

聖潔は忘我の境地ではない。それは意志を全く神に従わすことである。それは神のみ口から出る一つ一つのことばで生きることであり、天の父なる神のみこころをなすことである。光のうちにいるときと同様に、試練のときにも暗黒のときにも神により頼むことである。また、目で見て歩くのではなく、信仰によって歩むことである。それは少しも疑わずに確信をもって神に頼み、神の愛に安らぐことである。(患難から栄光へ上巻 47)

キリストが勝利されたように わたしたちも勝利すべきである

「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)

サタンはわたしたちを攻撃するよりもはるかに激しくキリストを攻撃した。キリストが自分のどちらかが征服者にならなければならないという思いにとらわれていた。もしキリストが最も強力な誘惑に抵抗して、自分がこのお方を罪に陥れることに失敗するなら、自分は力を失い、ついには永遠の滅びへと罰せられてしまうことをサタンは知っていた。そのために彼はキリストを、間違った行動をするように導こうと、全力を尽くして働いた。そうすればキリストをしのぐことになるからである。……あなたがたは救い主が受けたほど、断固とした残酷な方法で誘惑されることは決してない。サタンはキリストの歩まれる道に毎瞬間いたのである。(エス・インストラクター 1873年4月)

キリストが誘惑の荒野で敵との戦いに模範を示されたように、人は神の力をしっかりとつかみ、決意と忍耐をもってサタンに抵抗するつもりであろうか。神は人の意志に反して、サタンの術策の力から人を救うことはおできにならない。人はキリストの神としての力に助けられて、どのような犠牲を払っても、自分自身に対して抵抗し勝利するために、人間の力で働かなければならない。そしてその時、イエスの全能のみ名によって得ることが特権であるその勝利を通して、彼は神の相続人、イエス・キリストとの共同相続人となることができるのである。もしキリストだけがいつさいの克服をなされたのであれば、これは実例とはなり得なかった。人は克己という働きにおいてキリストと共労者にならなければならない。そうする時彼はキリストの栄光にもあずかる者となるのである。(教会への証 4巻 32, 33)

救い主は、人間がどうして勝利を得るかを示すために勝利された。キリストは、サタンのすべての誘惑に対して神のみ言葉をもって応じられた。神の約束に信頼なさって、神の律法に服従する力をお受けになったため誘惑者は勝つことができなかった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 156)

へりくだりの儀式におけるキリストに従う

「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ 13:14, 15)

弟子たちが晩さんのへやにはいって行った時、彼らの心は憤然とした気持ちでいっぱいだった。ユダはキリストのすぐ左側に割りこんだ。ヨハネは右側にいた。もし最高の位置というものがあるなら、ユダはそれを占めようと決心していたが、その位置はキリストの隣であるように思われた。……

不和の原因がほかにも起こっていた。食事の時には、しもべが客の足を洗うのが習慣だった。……足を洗うために水差しもたらいも手ぬぐいも用意されていた。ところがしもべがいなかったので、弟子たちがその役を果たす立場にあった。……イエスは彼らがどうするかを見るためにしばらく待っておられた。それから、天来の教師であられるイエスが、食卓から立ちあがられた。主は動作のじゃまになる上着をぬぎ、タオルをとって腰にまかれた。……「それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。」……このようにキリストは、弟子たちに対する愛をあらわされた。(各時代の希望下巻 118, 119)

この儀式を行うことは、「しかし主であり、また教師であるわたしがあなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互いに足を洗うべきである」という戒めの成就である。……争いを静め、自分にどのような害であっても及ぼした者を許すために、これは何とふさわしい場所であろうか。もし人が兄弟に対して何かわだかまりがあるなら、この儀式はそれを正常に戻し、あらゆる困難な点に決着をつける時である。互いに許し合おう。異火を祭壇にもってこないようにしましょう。聖餐式に集まる人々は恨みや憎しみを抱かないようにしましょう。(原稿 19, 1892 年)

この儀式が正しく守られるときにはいつでも、神の子らは、互いに助け祝福するために聖なる関係にはいる。(各時代の希望下巻 129)

聖餐式におけるキリストに従う

「食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい。」」（コリント第一 11:25）

キリストは、二つの制度とその二大儀式の転換期に立っておられた。……弟子たちと過越の食事をされたとき、主は、過越節の代りに、主の大きいなる犠牲の記念となる式をお定めになった。ユダヤ人の国民的祭典は永久に過ぎ去るのであった。そしてキリストがお定めになった式が、どの国どの時代においても弟子たちによって守られるのであった。……主が力と栄光のうちにふたたびおいでになるまで、この儀式は守られる。（各時代の希望下巻 130, 131）

キリストがご自分の民に会い、その臨在によって彼らを力づけられるのは、主が自らお定めになったこのような式においてである。……主に固い信仰をおいてこれにあずかる者はみな大いに祝福される。このような天来の特権の時をおろそかにする者はみな損失をこうむる。このような人たちについては「みんながきれいなのではない」と言うことがふさわしいのである（ヨハネ 13:11）。

しかし聖さん式は悲しみの時となるのではなかった。これはその目的ではなかった。主の弟子たちは……兄弟たちとの間の不和を思い出すのではない。すべてこうしたことは洗足式に含まれていたのである。……いまは彼らはキリストと会うために来ているのである。彼らは、十字架の影ではなくて、救いの光の中に立っている。彼らは、義なる太陽キリストの輝かしい光に向かって魂を開くのである。彼らはキリストのとうとい血潮によってきよめられた心を持ち、目に見えなくてもキリストの臨在を十分に意識して、「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる」と言われる主のみことばを聞くのである。……

聖さん式はキリストの再臨をさし示している。それはこの望みを弟子たちの心に生き生きと保つためであった。……苦難のうちにあるとき、彼らは主の再臨という望みに慰めを見いだした。「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである」との思いは、彼らにとって口に言い表せないほどとういのであった。（各時代の希望下巻 137,140）

Good Way Series 研究 2-9



教会と残りの民 (IX)

IV- 要約

三重のメッセージのうちにセブンスデーアドベンチストに明らかにされた真理が、今日のための真理であることは疑う余地がありません。この真理を構成している多くの教理は、「生きた中心としてのキリストと共に」、「神の御座のように堅固で動かすことのできないものである」。(レクテッド・メッセージ 2 巻 87)。

「人々の信仰と感情は変わるかも知れないが、神の真理は決して変わらない。第三天使のメッセージが鳴り響いている。それは絶対に誤りのないものである。」(教会への証 4 巻 595)。

これこそわたしたちが愛し、いだき、強く擁護する真理です。

そう言うものの、SDA 教会の方針に同意しないもつともつと多くのまじめなアドベンチストたちがいます。ここで述べているのは、新しい教理的な考えをあてはめている個人や分派のことではありません。そうではなく、教団の内外双方の幾千という数多い信徒たち、先駆者や預言の霊を通して明らかにされてきた通りの本来の教理を支持し、教会の近代の習慣には同意できない人々のことです。まことの証人(黙示録 3:15)によって責められている教会の働きは、教会の告白に一致していないことは明白です。C・J・リチェ長老、SDA 聖書学者は、この問題全体を次の短い言葉で述べています。「なまぬるいことは神にとって不快なものである。もしわたしたちが変わらないのであれば、拒まれるであろう。…わたしたちの状態は、自己欺瞞のそれである。わたしたちは真理を持っているが、とぼしい霊的な状態にある。わたしたちは大きな光を持っているが、そのうちを歩んではいない」(研究概要 7: 著者によって出版)。これこそ非常に多くの人が教会への信頼を失った理由です。そしてこの困難な状況、二つの異なる

る傾向が、アドベンチストの民を、信徒とまた大きく態度の異なる二つのはっきり区別された種類にわけました。昔ながらのアドベンチスト、すなわち原則の上に固く立つ人々は、最終的に教会が改革されずにいるならば、わずかな小さい群れだけが救われるだろうと信じます。そして預言の霊は明確に「教会」と「残りの民」の間の境界を明示しています。

ホワイト姉妹の初期の著書の中では文脈から、語られている残りの民とは、第三天使のメッセージを受け入れたヒラデルヒヤの期間（第六番目の教会）からの忠実な少数であることは明らかです。

それから後に、内容は著者が黙示録 12:17 にある同じ残りの民に言及していることを明らかにしています。

七つ目の預言的な教会の期間の進展とラオデキヤ教会の発達を見ると、内容から多くの場合において「残りの民」という言葉は、母教会から区別された「小さい群れ」以外の何ものかに言及しているのではないことは明らかです。もし、一方に関して宣言されていることが、他方にあてはめられるなら、確かに混乱という結果を生じます。

預言の霊（教会への証 3 巻 267、教会への証 5 巻 209-213, 524）は、終りの時に「忠実な残りの民」は「教会」であり、彼らが言うには、罪と罪人が取り除かれることによって清められるのだという教えは、誤りであることを証明しています。そのようなことはありません。背教した大多数が教会を去ることはありません。彼らは残ります。そして事実として、彼ら自身が「教会」であり、彼らは組織された教会として神の怒りの一撃を感じる時までますます墮落していくのです。

ユダヤ人はメシヤの初臨に関する預言と、再臨を暗に示している預言の区別を認めなかったために、大変な間違いを犯しました。しばらく前に宗教的なユダヤ人がわたしたちに、イエス・キリストが真のメシヤとは信じられないと言いました。なぜなら、メシヤが来られる時には戦争がなくなる（ゼカリヤ 9:10 参照）と記されているのに、今日までその状態になっていないからだ、と言いました。わたしたちが彼にその解釈はメシヤの再臨の時間に関しては真実であると告げたとき、旧約の預言に基づいて、わたしたちがキリストの初臨と再臨に区別を見出していることを知って驚いていました。

サタンがユダヤ人に対して成功したように、プロテスタントの諸教団に対して成功してきました。彼らを道徳律と礼典律を混乱するように導き、律法は一つし

がなく、それは十字架にくぎ付けられたと言わせるのに成功しています。

アドベンチストは、「教会」と「残りの教会」の間の明確な区別を無視することにより、同様の間違いを犯すのでしょうか。黙示録 14 章の三重のメッセージを信じると公言する人たちについて、わずかな数の人々だけが救われるでしょう（教会への証 1 巻 608, 教会への証 2 巻 445）。バビロンから出てくることになる数多くの「真のキリスト者」（各時代の争闘下巻 92, 93）と共に、キリストが来られる時に「生きている聖徒たち」は、「数にして 14 万 4 千人」だけです（初代文集 64）。ですから、「神がわたしたちにたまわったすべての力を尽くして、十四万四千人の中に入るように奮闘しようではないか」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 970）。

では、神さまがもうひとたび働かれるのを見てみましょう。アダムのあばら骨から、神さまが「造り」と教えられています。このお方が土のちりから人を「造」られたように、今、無限の知恵と技能をもって、全人類の母となるべき人を造られたのでした。どれほど完全に、神さまは彼女のすばらしい顔だちをかたちづくられたことでしょうか！どれほど優美に、彼女の長いながれるような髪の毛を整えられたことでしょうか！神さまは、なんとうるわしい考えをもって、すべての母親にもってほしいと思われるやさしさ全部、親切さ全部、愛らしさ全部、尽きることのない愛の宝庫全部を、エバの思いや心のうちにおいてくださったことでしょうか！言うよりも短い時間で、彼の前には、すべての造られた者の中でもっともうつくしい人が立っていました。彼女のひとみは命の喜びに輝き、やさしいほほえみは彼女の顔にくらべるものがないほどの美しさを与えていました。そして今、ゆっくりと優雅に、神が彼女を「人のところへ連れて」こられたときに、はじめて足をはこんだのでした。

ふしぎに思いながら、彼女は自分の前で寝ている人を上からながめました。これはだれでしょうか？

おそらくはいつかどこかで、神さまが与えて下さったこのすばらしい世界で、自分のつれあいと出会うことを夢見ながら、アダムはかすかに動いて、目を開きました。ああ、なんという不思議のなかの不思議！彼の前には、自分が期待できる以上に美しい人が立っているのです。あまりにもえりぬきで、あまりにも気高くて、あまりにもすべてが美しくとても本物だと信じられないほどでした。彼女のかげやいた、親切で理解のある目をのぞきこみ、彼はすぐにこれこそが自分の助け手であることがわかりました。自分はずっと待ち望んでいた愛するつれあいです。

「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。」

一目で愛しました。二人はすぐに自分たちがお互いに一部であることがわかったようです。彼らははやる思いで手をつなぎ、いっしょに歩いて行きました。栄光に満ちた新地の王と女王として、彼らは花に満ちた野を通り、木におおわれた丘をこえ、波うつ岸を下って行き、神さまの創造の不思議を探索し、このお方の力の栄光におどろきました。

そのとき、それほど遠くないところで、やさしい愛のうちに彼らをしずかに見守り、彼らの完全な幸福にほほえみを向けておられたのは、神ご自身です。このお方の喜びは、彼らの喜びのうちに完成されました。

もやしとにらのお焼き

■材料

もやし	1袋
にら	1束
顆粒昆布だし	小さじ1
小麦粉	160g
水	2/3カップ
塩	少々
ごま油	適量

■作り方

1. にらを4センチくらいに切って、ボールに入れます。
2. もやしと調味料を入れて、よくまぜます。
3. しんなりしたら、小麦粉を入れて軽くまぜ、水を足してさらに良くまぜます。
4. フライパンにごま油をひき、たねを適当な大きさにわけて、両面カリッと焼きます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

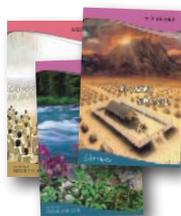


書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第20話

創造されたもつとも美しい人(II)

「主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造」られました。

神さまはなんと変わったことをなされたことでしょうか！神さまが太陽、月、星を「天のおおぞらにあって地を照らす光となれ」と言われることによって造ることがおできになったなら、またもしこのお方がすべての動物を「地は生き物を種類にしたがっていだせ」と言われることによって造ることがおできになったなら、なぜ「女をいだせ」と言われなかったのでしょうか。またなぜ神さまは、ご自分のすばらしい新世界において、アダムを最高にすぐれたものとして造られたその後で、彼の完全な体からあばら骨をとって、アダムが生涯つれそう人を造られたのでしょうか。

神さまがなぜこのようになされたのかには大切な理由があるにちがひ

ありません。そして、それは神さまがアダムに自分の妻が本当に彼の一部であることを知ってほしいから、こうして彼がいつも自分自身のように彼女を扱うことができるようにだと思えます。聖書は、神さまが「ふさわしい助け手」、わたしたちの言葉では、「仲間」になるエバを造られたと教えています。それはなんとうるわしい考えでしょう！彼女はいつも彼のかたわらに立つことになるのでした。彼を助け、彼と共に働き、彼と共に計画を立て、また彼と共に生活の喜びをわかちあうのです。

